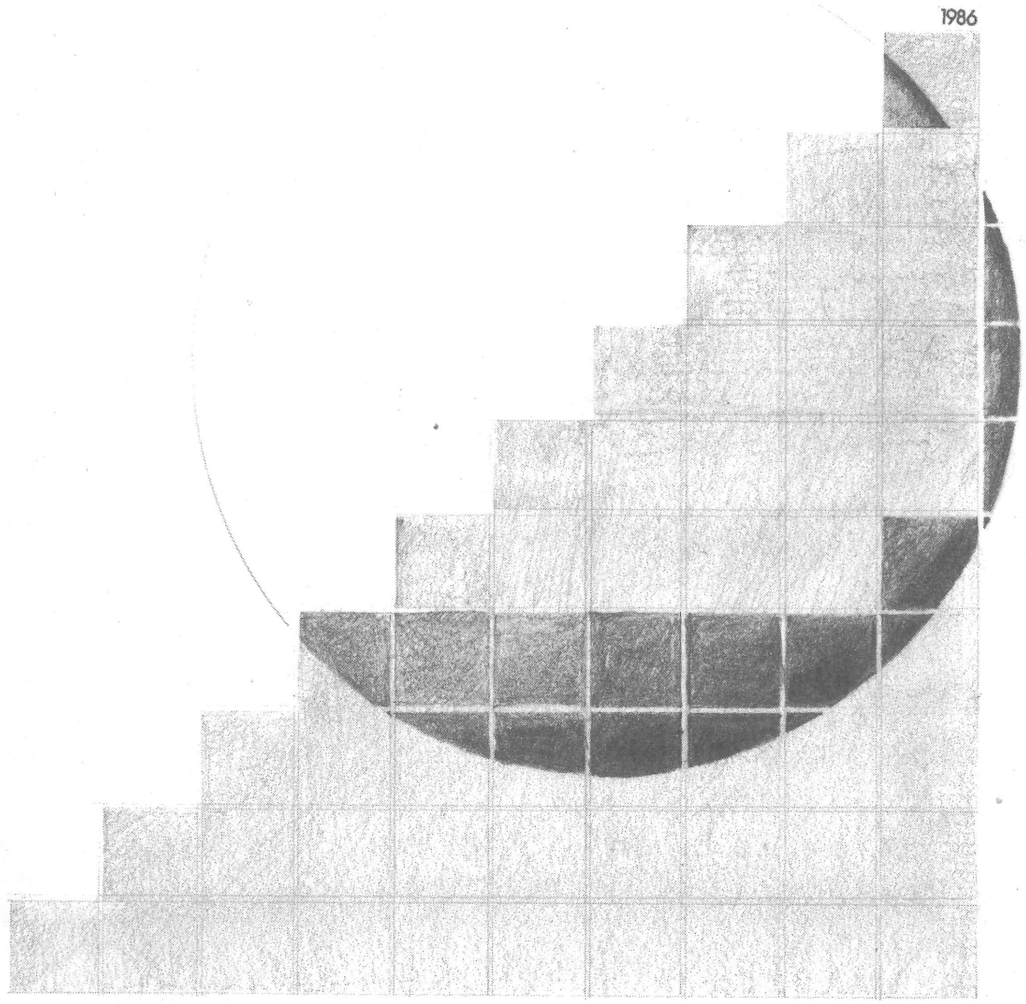
発　　行　　豊橋技術科学大学同窓会
発行年月　　昭和62年１月15日
印　　刷　　㈲ 三 愛 企 画

同窓会報



第　４　号
６２．１．１５
豊橋技術科学大学同窓会

表紙の言葉

10年間の間に積み重ねてきた階段
見え隠れする円は
大学，社会　あるいは　世界を
イメージしています

Design By M. W

同窓会会員の皆様へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長　学長　本　多　波　雄

本学が設立されたのは，昭和51年10月のことですから，本年は丁度開学10周年にあたります。そこで，これまでの歩みを振り返り，新たな発展への展望を開く期待を込めて，いくつかの記念行事を行なうこととしました。

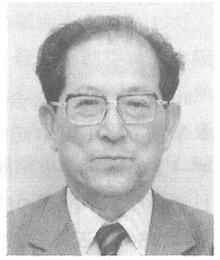
10月9日には，本学の創立とその後の整備充実に御尽力をいただいた方々をお招きして，本学教職員，卒業生・在学生ともども，記念式典，祝賀会を挙行して，喜びをともにすることになりました。また，創立当時の文部大臣であられた永井道雄先生に，記念講演をお願いしました。

その他，9月から11月にかけて，次のような多彩な記念行事が催されます。1. 記念式当日に大学公開，2. 9月上旬より10月上旬にかけ，毎週土曜日に，公開講座「最近の技術革新と技術科学大学」，3. 記念式典に引続く技科大祭，4. 11月1日～3日にわたる国際シンポジウム「情報技術の発達とその都市・環境系に対する影響」，5. 11月21日にメカトロニクスと地域計画を2本柱とする技術セミナー。

さらに，記念事業の目玉として，10年史と名簿の発刊を行ないますが，このうち，名簿の編さんについては，もっぱら同窓会の御協力に頼りました。この機会に，卒業生のデータベースを作製することとなり，第4工学系大岩研究室の努力により完成しました。ここに改めて，関係の方々に厚く謝意を表します。今後の管理は大学が引受ける予定です。

10年史は，あまり堅苦しくないものにしようとの方針から，学内外の方々からの寄稿を多数挿入し，読物風の欄をつくりました。同窓会員からも，思い出，期待，批判などさまざまな随想が寄せられ，それらを拝見して，懐かしい思いにかられたり，考えされられたりしています。

同窓会会報第3号の中でも触れましたが，待望久しかった大学院博士課程が本年4月1日に設置されました。この博士課程は，正確にいうと，大学院工学研究科博士課程で，その前期課程には，従来の修士課程6専攻がそのままの形で残り，その上に後期課程として，「材料システム工学専攻」と「システム情報工学専攻」の2専攻を置くものです。全体の計画は，上記2専攻に「総合エネルギー工学専攻」を加えて，3専攻をもって構成されますが，本年度はまず2専攻で発足することになりました。



入学定員は各専攻6名，したがって，本年度の入学定員は12名でしたが，実際には18名が入学しました。多くの大学院で，博士後期課程は定員割れに悩んでいるのに，本学は滑り出し順調といったところです。大学の門戸を広く開くという趣旨に沿って，従来の修士課程と同様に，博士後期課程でも社会人入学を歓迎しており，開設初年度から，数名の入学者がおりました。

門戸開放といえば，国際交流も本学の重要な柱の一つです。開学当初より，留学生の受入れを積極的に図ってきましたが，最近ではその数が激増しています。若干の出入があるので正確ではありませんが，現在すでに35名前後，入学予定の者を加えると，年度内には40名をかなり越えると予想されます。この人達が母国に帰って活躍されると，同窓会も国際的な組織になると期待できます。

産学共同に関する活動もますます盛んです。その主なものについて，昭和60年度の実績を申しますと次のようになります。1. 共同プロジェクト研究17件（民間機関等との共同研究5件，その他12件），2. 技術者・研究者の受入れ49名（受託研究員4名，研究生40名，大学院学生5名），3. 研究経費の受入れ192件（受託研究5件，奨学寄付金187件），4. 技術相談31件。同窓会の皆様からも，積極的に大学と接触されることを望みます。

最後に，卒業生の就職状況について述べます，本学卒業生対する求人希望はますます活発で，昭和60年度卒業生でいうと，全体の求人倍率は24.9倍，課程によっては50倍というところもありました。昭和61年度についても，勢の衰える様子は見られません。このように本学卒業生に対する期待が大きいのは，主として同窓会会員の活躍が高い社会的評価をえていることによるものであり，まことに心強いかぎりであります。本学教職を代表して皆様に敬意を表しますとともに，今後の一層の御発展を期待して私の御挨拶といたします。

（昭和61年8月記）

学内近況報告

エネルギー工学系

北村健三

昨年末に同窓会会報第３号が発刊され，今回は本学創立 10 周年記念号となります。私共エネルギー工学系も今少年期から青年期へさしかかろうとしております。この間エネルギー工学系卒業・修了者は 250 名近くに達し，日本各地，あるいは海外で活躍している様子が報告され益々意気軒昂たるものが有ります。

そこで最近のエネルギー工学系の動きを中心にお知らせします。まず 60 年 10 月に森下先生が古巣の横浜国立大工学部へ助教授として栄転されました。また後任に畔上秀幸先生が東大生研より赴任され現在助手として御活躍中です。一方３月 31 日付でミラン・シャトラ先生が故国チェコスロバキアへお帰りになりました。また同日付で実験実習工場の上田，村松両技官が停年退職されました。翌４月１日には，熊本大学から竹園茂男教授と，埼克己助手が配置換され，現在第３講座で材料力学関係のお仕事を精力的になされておられます。さらに同じく小山高専から半年間の予定で鈴木秀人助教授が赴任され学生の良き相談相手となっていらっしゃいます。

以上のようにエネルギー工学系は日進月歩の勢いで絶えず変化しておりますがそれ以上に変化の激しいのは卒業・修了生諸君の身辺だと言えます。今回同窓会名簿の作成をお手伝いしましたが，結婚，転勤転職で多くの卒業生の現住所が変わっており，その追跡調査をするのに大変苦労しました。どうか卒業生の皆さん，住所や勤務先が変ったら，同窓会事務局やあるいは出身研究室にその旨御連絡下さい。そしてせめて同窓会役員の仕事を軽減するよう努めてやって下さい。彼らは純粋に奉仕のみでやっているのですから。

生産システム工学系

坂野武男

今年は創立 10 周年ということで記念行事が各種行われ，卒業生諸君も同窓会を通しての案内などより，感慨ひとしおの人も少くないと思います。

今年の定例移動で系長には湯川夏夫教授，補佐は岡根功教授が任命された。４月には製錬研究室に横山誠二助手が着任し，江崎教務員は塑性加工研究室へ転属となった。工作センタ関連技官も定年退職の上田，村松両氏の後に小楠和彦氏と徳増学氏が来任され，実験実習工場を中心として活躍中である。また２系とは関係の深い工作センタの専任助教授には山崎和雄氏が移動し，２系と併任となり，堀内先生は２系に戻り目下１年の予定で英国留学中です。またここの任期制助手には岡林眞氏が，専任技官として早川茂男氏が着任され，HIP，CNC など関連プロジェクトの業務が充実して来た。

阪田省二郎助教授はリンツ大学（オーストリヤ）での約１年の留学を終えられたなど，先生がたの海外出張は盛んであり，留学生も中国を始めベルギ，フランスなどと多彩である。学会関係では機械学会東海支部大会を始め各種の研究会は活発である。恒例の公開講座では技術革新と大学というテーマで２系関係も湯川，岡根両先生が分担しておる。

博士コースも念願が適い，材料システム工学とシステム情報工業専攻が発足し，来年はエネルギ関係となっており，何れも定員を上回って出足は好調である。

今年の新入生歓迎会は例年と異り鳳来寺ツアでハイキングを含め教官ともども新緑の下で交歓の成果が挙った。

就職関係も好調であり，一部に見られる景気の影響は出ていない。

卒業生諸君の活躍も年を追って活発となり，関連分野のリーダとしての期待通りに業績も上りつつある様に聞いており，今後の一層の発展を望んで止みません。機会を見ての母校訪門を期待しております。

電気・電子工学系

小崎正光

同窓会の世話係として前中君と一緒に，10 周年を記念して発行される名簿の作成に協力しましたが，まだ会員数が膨大ではないのでなんとかこなしました。皆さんも住所変更その他の連絡事項を速やかに同窓会宛て知らせてください。名簿は UP-TO-DATE にしておくことに価値があります。

さて，電気・電子工学系の先生方にも大きく変動がありましたので９月１日現在の陣容を紹介しましょう。基礎電気・電子工学大講座［教授：野田保，野口精一郎（系長），藤井寿崇，英貢，助教授：太田昭男，西垣敏，服部和雄，助手：小山晋之］，電気システム大講座［教授：榎本茂正，小崎正光，榊原建樹，助教授：長尾雅行，水野彰，助手：東山禎夫，水野幸男，教務職員：河本映］，電子デバイス大講座［教授：中村哲郎，吉田明，米津宏雄，助教授：並木章，石田誠，講師：朴康司，教務職員：前中一介］の皆さんであります。随分変化があったなと感じられると思います。安田幸夫教授が名古屋大学工学部に転出され，日本電気㈱から米津宏雄教授をお迎えしました。さらに，転出されたのは見山友祐助手（東京理科大学）を財満鎮明助手（名古屋大学），昇任されたのは榊原建樹教授，石田誠助教授，水野彰助教授，朴康司講師であります。新任として水野幸男助手が名古屋大学を終えて来られました。同窓会報第３号に記載すべきことだったのですが，悲しくかつ残念なことに若手の有能な研究者であられた奥谷剛助手が昭和 60 年７月 13 日に急逝されました。学生実験などで熱心な指導を受けた皆さんも多いと思います。ご冥福をお祈りします。

創立 10 周年を迎えて電気・電子工学系もいよいよ充実し張切っております。修了生，卒業生の皆さん遠慮せずにどんどん母数を訪ねて来てその発展ぶりをご覧下さい。先生，後輩一同待ってますよ。

情報工学系

飯田三郎

卒業生の皆様お元気でしょうか。本年 10 月に開学 10 周年記念式典が盛大に挙行されましたが，ここで情報工業系の近況をお伝えしておきます。

現在の教職員の構成は，次のとおりです。計算機大講座［教授：楠菊信（系長），大岩元，助教授：飯田三郎，中川聖一，講師：今井正治，助手：河合和久］，情報処理大講座［教授：河竹好一，阿部健一（系長補佐），臼井支朗，助教授：橋口攻三郎，斎藤制海，辰巳昭治，助手：村瀬一之，教務職員：平井誠］情報システム大講座［教授：秋丸春夫，宮崎保光，助教授：田中正興，田所嘉昭，講師：山家光男，助手：山田晃，後藤信夫］。

北橋・茨木両教授は古巣の大阪大学・京都大学へ，また高橋・平田両助手は電気通信大学・名古屋大学へ，それぞれ転出・栄転なさいました。在任中の教育・研究の労に対し，この紙面をお借りして，厚く御礼申し上げます。河合・後藤両助手は，大阪大学・名古屋大学より着任いたしました。若き情熱を教育・研究に注がれるものと期待されております。系内では臼井教授・山家講師が誕生し，また阿部教授が情報システム大講座から情報処理大講座に移られました。

諸先生も東奔西走の多忙の中で，教育・研究に邁進しております。皆様方も御健康に留意され御活躍下さい。

物質工学系

上野晃史

卒業生の皆様，お元気に御活躍の様子なによりと喜んでおります。

ここ１年間での物質工業系の様子を列記します。

(1). 亀頭，堤両先生が教授に昇格いたしました。(2). 平田先生が助教授に，伊津野先生が助手にそれぞれ昇格されました。(3). アメリカ合衆国に留学中の竹市先生が８月に，元気に帰国されました。(4). 現在，永島先生がアメリカに，前田先生がフランスに，また伊津野先生がカナダに留学中です。(5). 系内ソフトボール大会は上野研の４連覇となりました。

本年９月には豊橋技術科学大学 10 周年の記念行事が予定されています。時の経つ速さに驚きます。また，10 月には名古屋大学，名古屋工業大学で日本化学会が開催されます。卒業生の皆様の中でも，出席される方がいるかと思いますが，その節には大学の方へも御立寄り下さい。

就職関連は本年も好調な様子ですが，就職担当をされている浅田先生は，本当に御多忙な毎日を過されております。今年もきっと，皆様の所に，物質工学系の後輩が入社することと思いますが，宜しく御指導して下さい。

最后に，くれぐれも身体を大切に，益々御活躍されんことを，教官一同，心から期待しております。

建　設　工　学　系

小林陽太郎

昭和 60 年 4 月から，1 年次の入学定員が 15 人に増加しました。

さて，昨年度同窓会報につづいて，学系内の変動をお知らせします。昭和 60 年 9 月，環境工学講座の安達三枝子技官が結婚され片岡姓で引続きつとめられ，12 月小川正光先生が愛知教育大学助教授として転出され，昭和 61 年 3 月から，瀬口哲夫先生が 1 年間の予定で御家族づれで London へ研究にゆかれました。同月講構造工学講座の江口健次技官（昭和 54 年 4 月以来）が停年退職され，それに代り 4 月から金田隆文技官が入職され，同月 第 1 回修士課程修了の森一彦氏が山下設計から計画講座助手として入職されました。

5 月には，6 年 1 ヶ月事務室を担当され一同が大変お世話になった清水由紀子事務官が会計課へ移られ，代りに学務課から林厚子事務官が来られました。

昭和 60 年 4 月から同 61 年 6 月末まで，名大から構造工学講座の併任教授として御指導下さった坂本順先生が併任を解かれ，7 月に，加藤史郎先生が教授に昇任されました。7 月，山崎寿一氏が神戸大学から助手として入職されました。

9 月から，中華人民共和国同済大学（上海）から蔣通 Jiang Tong 先生が専任講師として転職して来られ，短期間研究員として L. R. L. Wang 教授（Dean of Civil Eng., Old Dominion 大学 USA）が 6～8 月間に，孫章烈 Sohn Jang Yeul 先生（大韓民国漢陽大学校建築工学科・温熱環境工学）が 8～12 月間に，本学系に滞在され共同研究・講義などを担当しておられ，国際色が濃くなっています。

本年 4 月から発足した，大学博士後期課程には，システム情報工学専攻に僧理栄司，田中勝（本年修士修了），角舎輝典（昭和 58 年 3 月修士）の諸君が入学しました。

本学系関係の受賞者を紹介すると，昭和 60 年 5 月に北尾高嶺先生が「水」賞（月刊「水」），昭和 61 年 4 月に渡邊昭彦先生が(財)大幸財団から「生涯教育方法論」特選論文賞を，同年 5 月に横尾義貫先生が日本建築学会創立 100 周年記念大会において大賞を，同年 5 月には加藤史郎先生が日本建築学会論文賞（シェル構造の解析について）をお受けになりました。慶賀の至りであります。

本年 10 月 9 日には，本学創立 10 周年記念行事が行なわれ，式典・パーティ開催と共に同窓会名簿（同窓生・現旧職員・在学生）が完全な形で発行されました。これもよろこばしいニュースです。これは同窓生，教官・事務官三者一体活動の成果です。

最後に同窓生諸君にお願いしたいとこは，卒業・修了学生諸君の勤務先（電話）・住所（電話）などを移動の際に必ず出身研究室および 6 系事務室へ葉書で御一報頂き度いことです。特に，年賀状に上記を書いて下さる習慣をつけて頂き度いと願っています。

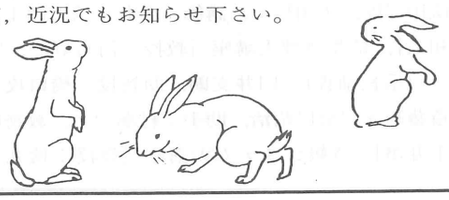
同窓生・旧職員各位の御健康と御活躍を祈念致します。　　（昭和 61 年 10 月）

七　系　か　ら

安田好文

卒業生の皆さん，お元気ですか。技科大も 10 周年（学生募集以来では 9 年目ですが）を迎え，先日盛大に記念式典か行われたところです。目先の多忙さにかまけて，ついつい日の経つのも忘れる毎日のため，改めてもう 10 年かといった気持ちになります。大学も年々施設が整備され，やっとキャンパスらしい雰囲気を感じさせるまでになりました。開学当時の工事現場のようなキャンパスを知る者にとっては夢のようです。しかしながら，施設が充実し，教育・研究が軌道に乗り始めるにつれ，開会当時の活気溢れる雰囲気は，年々薄らいで来たような気がいたします。10 周年を機に，活気溢れる大学にして行きたいものです。

七系においては，昭和 53 年度 9 名であったスタッフも，現在は冨田系長以下総勢 20 名の大世帯になりました。その構成は，英語 7 名，計画経営 6 名，ドイツ語 3 名，体育 2 名，国文学 1 名，史学 1 名です。この間に，新しく 16 名の先生方をお迎えし，同時に開学以来たいへん御世話になった簗瀬，中神両先生を御定年で，また，林先生，河野先生，増山先生をご転任でお送りいたしました。豊橋を離れられた先生方も，また現スタッフも皆元気で頑張っています。豊橋にお越しの折にはぜひ七系にも寄って，近況でもお知らせ下さい。



Free Talking　同窓会員各地の便り

私の趣味…MyHobby

昭和 57 年　電気・電子工学専攻修了
所　哲郎

今から 10 年前豊橋技術科学大学を受験し，面接試験で私の趣味はパズルですと答えたほど好きなものがあった。別に得意であったわけではないが，いつもそう言っていた。すると言った手前，精文館技科大店にパズル関係の本があれば私が買わなければならず，また第 1 回技科大祭でもパズル展を催さなければならないはめになった。でも，好きでするのだから負担にはならなかった。おかげで自宅の本棚は今でもパズルの本で一杯で，電気の本（私は電気・電子工学専攻でした）は一冊もない。

ところで最近，職場（岐阜高専）の関係からか，私の趣味に同窓会活動というものが加わった。いつの間にか同窓会のことは所に聞け！となってしまった。ある視点から見れば卒業生が母校のためにいろいろな業務（主に電気工学科同窓会誌の毎年発行）をするのは当り前で他にだれが面倒を見るか……となる。それほど必要（？）ではあっても，その役員にとってあまりメリットを生まないものが同窓会である（経済的にはマイナスでしかない）。これを仕事の一環だとはとても割り切れないので，私はこれを趣味と思うことにした。人間，自分の趣味には時間と金と情熱を注ぐものである。

今は自分の仕事である研究と教育を，仕事であり，かつ，趣味と思えるように自己鍛錬にはげんでいる。技科大の恩師の方々からはこの上さらに生きがいの上の使命感すら感じとれるが，まだその境地には至らない。

最後に，技科大入学の年，母を亡くし，今（S 60. 8. 30）長女の誕生を迎え，10 年という年月の重さとその過ぎ去る速さにとまどいつつも，豊橋技術科学大学関係各位の益々の御発展を祈念しております。

昭和 60 年　情報工学専攻修了
高橋岳之

薄紫のベールをまとう北岳の傍らでビールを飲む。嗚呼，至福のとき。

高専時代の同級生に誘われて始めた登山も 3 年目を迎えた。最近では，月に 1 本の割で登るようになっている。何が私を山に誘うのか。

私の山行は，後立山連峰の縦走から始まった。初日からずっとガスにまかれ，コースにある雪渓の状態が悪くなり予定のコースがとれなくなるなど，とにかくきつい山行で，もう山なんて，と思っていた。ところがである。下山途中に休憩した小さなピークで，いままでしつこつまとわりついていたガスが消えたのである。正面に剣・立山連峰の雄姿が，そして全身を鳥の唄声が溶け込んだ風が包み込む。もう山の虜。

このように，苦労して辿り着いたところで出迎えてくれた山々や，山腹一面に広がるお花畑の中に佇んで，時が経つことすら忘れてしまったような経験を持つともうだめである。夢にまで出てくる。そして，ビール，山で飲むビールは下界で飲むどんな飲み物よりもはるかにうまい。このうまさを味わうともうやめられない。中毒みたいなものである。（アル中ではない……と思う）

ただ，山に対しては，クライマーとしてではなく，いわゆるハイカーとして山が楽しめればいいという軽い気持ちでいる（無論，山や自然を軽く見るということではない）。だからというわけでもないが，社内では，バスケット部とテニス部に所属し，草野球にもちょくちょく顔を出し，1/4スケールのトライアスロンに挑戦したりと，とにかく少しぐらいの人の迷惑など考えずに，自分の気を引いたものには何でも首を突っ込むようにしている。

遊びに真剣になれない人間に仕事ができるわけはないという言葉を信じて，これからもいろんなものに挑戦していくつもりである。その中で，山だけは心の糧としてずっと続けていきたい。

昭和 57 年　生産システム工学専攻修了

山田文洋

ブラザー工業に入社して，早や５年目を迎え，現在小型プリンターの設計を担当しています。

学生時代，静かで，のんびりとした自然環境の中で過ごしたため，今一つ競争心が少なく，自分に不甲斐ないと思う時もあります。

しかし，唯一の趣味である，テニスに打ちこむことができたために，入社後もテニス部に所属することができ，また，私の対人関係を十分に広げてくれました。

年２回の合宿と，練習は日頃の運動不足を解消してくれると同時に，闘争心を呼び起こしてくれます。

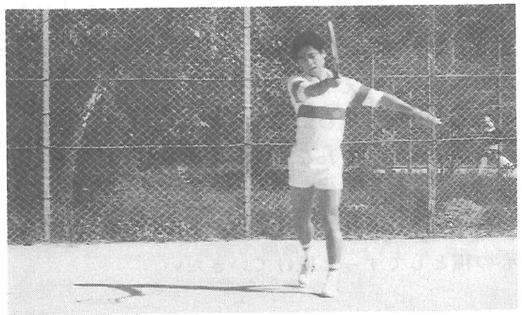
しかし，少々せり出してきたお腹と，30 才という年令からか，以前ほどの活動力は望めません。自然とシングルス主体から，ダブルス主体の試合が増え，体力勝負から，技巧派への転換期を迎えたようです。

この円高のおり，日本の企業も今までの体力勝負一本槍の姿勢を改めて，技巧派に転向する時期だと思います。自分のオリジナリティを生かし，仕事に取りくんでいかなければなりません。

社会人のテニスの大会を見ると，ダブルスにおいて，若さは必ずしも勝つ要因とはなっていません。事実私も，50 才近いペアに完敗したことが２・３度ありました。ある意味での「したたかさ」かもしれません。その「したたかさ」を，年々自分が身につけていくことが，体力との交換条件になることは，確実のようです。

皆さん，発表の場は数多くあります。確実さと，「したたかさ」を，十分に発揮して，自分の体力と年輪を感じられるように，がんばりましょう。

あのジミーコナースが，今でもトップクラスに留まっているように，花のウィンブルドンを目指して，私は，がんばります。



ところで，あなたの体力年令は何才ですか？

昭和 58 年　物質工学課程卒業

高井より子

社会人になって３年が経ち，４年目も毎日が目まぐるしく過ぎて行きます。そして時間の経過は，１年毎に速くなるようです。入社した 58 年は社会人という立場に順応する事と，仕事に対して一生懸命で，趣味を持つなんて余裕はありませんでした。でも１年が過ぎた頃から，行動の余裕はなくても精神的に少し余裕ができたのか，このまま仕事だけという人間になるのはイヤ，一生続けられる事をしたいという気持ちが大きくなって来ました。

以前からテニスや映画観賞，スキー等の上辺の趣味を持っていましたが，これらとは違った意味での趣味を持ちたいと思い始めました。というのは，趣味と実益を兼ねたものとでも言いましょうか……。

男性ならば今の仕事を続けるというのが一般的ですが，やはり女性は結婚すると家事・育事と，いつどこで今の技術的な仕事を離れなくてはならない時が来るかわかりません。そこで高校時代からの願望であったエレクトーン講師の免許を取得し，自分で楽しみながら実益も兼ねたいという望みが湧いて来ました。しかし残業の多い仕事柄，なかなか手が出せず，「まあ急ぐ事ではないし，会社を辞めてから始めればいいわ」と思っていたのです。でも講師をしたいのなら，会社を辞めてから始めていたのでは遅い，両手両足を必要とするこの楽器は，運動能力のある若いうちが勝負と考え，やっと３週間に１度のレッスンを始めるに至りました。半年後には行動のゆとりも生じ，１週間に１度のレッスンになり，一寸した演奏ができるようになると楽しくて，会社で嫌な事があってもその気分転換になるようになりました。

今ではレパートリーが増えた上に，一つのグレード試験にもパスし，一歩一歩目標に近づいていると増々希望にもえています。最近では友人の結婚のお祝いに，ウェディング曲をカセットテープに録音してプレゼントし，好評を頂いています。

今後も仕事でのストレス解消として，また仕事を離れた時に趣味と実益を兼ねられるよう，講師資格取得を目指して続けていきたいと思っています。

(61. 8. 記)

「私の一生の趣味」

昭和 57 年　電気・電子工学専攻修了

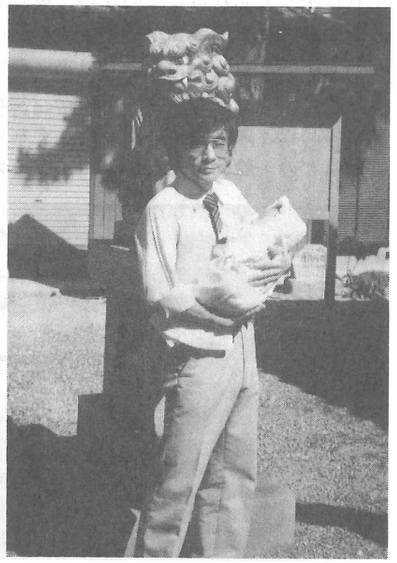
古野　志健男

私がこの趣味を始めてから，まだ４ヶ月足らずである。しかし，妻に言わせると，かなり板に付いて来たらしい。最近，特に会社から帰宅すると必ずこれをする。我二世の御機嫌を伺うのだ。

まず，手を洗い，うがいをし，息子を抱き上げる。彼は一重瞼で鼻は低いが，とっても可愛いい。特に帰宅して３分間はそう思う。夕食の仕度ができるまで，私は彼の相手をする。いかにしたら抱かずに泣かせないで済むかを研究しながら。しかし，食事中だけは，この趣味を放棄して自分の栄養補給に専念し，彼を泣かせっぱなしにしておく。その時間，約 40 分前後。彼は，流石に私の息子だけあって，その間絶対に泣き寝入りすることはない。食事後，しゃくり上げる彼を風呂に入れ，ミルクを飲ませて，その一日の私の趣味は終了する。

最近の未曽有の円高で残業規制が一段と厳しくなり，おかげでこの趣味はほぼ毎日できる。誠にうれしい限りだ……。週末なんてまる一日この趣味ばかり。それにこの趣味まだまだ当分続くわけである。大変な事だ。歳月がっても，その趣味の仕方が変れど，だ。

人類の否，生物の持ち廻りの義務とは言え，この趣味，成し遂げるのは大仕事だと痛感する。勿論，責任も大きい。今，親のありがたさの百分の一程度はわかったように思う。



ところで，我二世，全世界に翔くように“翔(しょう)”と命名した。これは３冊の参考書を読んでも考えつかなかったが，たまたま社内運動会のスローガンを考えていて，ふと思いついた。決して松田聖子の赤ちゃんが男だったら翔と名付けるというマスコミの話からではない。それはさて置き，とにかく彼には自由に大きく生きてほしい。

さて，私，来年三十路。ふと一人になると，『俺の人生は…，一生は，はたしてこれでいいのか』という思いが，古くなりつつある脳裏を横切る事がしばしばある。

人生は，一度しかないのだ。

昭和 57 年　情報工学専攻修了

高嶋孝明

私の所属する部署は「人間工学」，Human Factors の日本語訳なのですが，私はこれが気に入らず，近頃，「人間考学」を好んで使っています。仕事の内容を一言で表すのは難しいのですが，いつも製品開発部門に，「この設計は……だから使い勝手が悪い，お客様の身になって考えられていない！」などと文句を言っている（ケンカを売っている）といえば多少なりとも雰囲気をお分りいただけるでしょう。

現在の情報処理産業は，まだまだ「コンピュータ考学」に強く傾きすぎで，使う側の人間のことは十分に考えられていない，というのが私の主張するところです。これは，私の文句に対して返ってくる言葉が，「プログラムが……だから」とか「あれがこうなって，ここがこうだから……」とかいった，自分勝手な，作り勝手の言い訳ばかりであることからも分ります。ところで，このような問答を技科大出身者と交したなら，どんなことになるでしょうか(幸いなことに，まだありませんが)？高専，技科大と人並以上に専門的に技術を学んできて詳しいあまり，私がこれまで経験したどれよりも否定的な反応が返ってくる，なんてことになりはしないでしょうか？多分これは私の取り越し苦労で，技術をより深く理解しているからこそ，人間の側に立った使い勝手という本質が目に行き届き，それを解決するための技術的な困難にも立ち向って解決するのが，技科大生でしょう。さて，実際は……？

私の訴えたい「人間考学」とは何であるか，お分りいただけるでしょうか。ヘタなりにも，その必要性を説き，文章を書いて少しでも多くの人に理解してもらうこと，そして，それに挑戦することが私の今の仕事でもあり，楽しみ，趣味になりつつあります。

昭和 61 年　エネルギー工学専攻修了

鈴 木 雅 晶

修了してまだ数ヶ月，会社では新人と呼ばれ，宴のあるごとに狩り出され，仕事とはと言えば研修もそこそこに，４月から働かされている今，同窓会から原稿の執筆の依頼が来ました。与えられたテーマのうち，「私の趣味」について書きたいと思っています。

映画と舞台劇の鑑賞が「私の趣味です。」と会社では言っています。一応，学部の時に上・同級生と「映像文化研究会」を作ったし，豊橋演劇鑑賞会に入って，あの加藤剛に 30 分もインタヴューをしたんですけど……マニアと言われる程，数多く見てはいないし，作品に対しての議論もできません。でも，「時間」を感じとれます。前に一度見た作品がリバイバルされたり，引越先でやってたりすると，「その時」を思い出しますよ。見た作品が全部良いってわけじゃないけれど……。例えば，あまり好きじゃない曲がヒットして，そしてそれから何年か後，そのメロディーを聞くと「あの時」を思い出しますよね。その曲が好きになってしまうことだってあるかもしれません。映画や舞台劇にも，この事があてはまりますよ。むしろ，メロディーよりもイメージが強く頭に残るから映画や舞台劇の方が……。これらの最大のメリットは，その世界にのめり込む事ができると言う点です。自分は数多くの作品は見ていませんけど，好きな作品は，セリフを覚えるまで，とことん何回でも見ます。ストレス発散にもってこいですよ。今，東京に住んでいて，鑑賞の「場」には恵まれているけれど，料金が高いですね。豊橋に居る時は自分達の手で劇団を呼んでいたから安く見れたし……。いつまで東京に居ることができるか分らないけれど，名画座や劇場へ頻繁に足を運びたいと思っています。

話は変わりますけど，混相流研のみなさん，リアさんが７月１日に日本を離れました。写真は６月 29 日にリアさんと写しました。

昭和 58 年　生産システム専攻修了

安 冨 一 嗣

日曜日の早朝，私は眠い目を擦りながらガレージのシャッターを上げる。ガレージの奥にはイエローの RM250 が２台，静かに置かれている。私はそのうちの１台を外に運び出し，今日の気温と湿度を予想し，イグニッションプラグの熱価とメインジェットの番数を最も良く「エンジンが吹ける」状態にする「セッティング」を行なう。更に車体の各部を点検する。そしてすべてのチェックが終ると RM250 を車に乗せ，モトクロスサーキットへ向かう。

そう，私の趣味はモトクロス，正確にはモータサイクルクロスカントリーという。もともとはオートバイで大自然の山々の不整地を走る競技を意味する言葉であったが，近年は人工のサーキット（もちろん不整地）を走る競技を言う。私とモトクロスとの出会いは 12 年前にさかのぼる。16 歳の誕生日の翌週に原動機付自転車の免許を取得したころのことである。当時は，スズキの黄色いワークスレーサーが世界中のレース場で好成績を残し，オートバイ雑誌にハデなジャンプシーンの写真がよく載っていた。私は，買って間もない原付に跨がり，ろくにギアチェンジも出来ないヘボ運転で大阪の生駒山にあるモトクロスコースへと出かけた。そこで見たものは，雑誌の写真とは比べものにならない迫力で不整地のコースをバッタの様に飛び跳ね，砂を蹴散らし，後輪をドリフトさせコーナーからロケットの様に飛び出して来る黄色いモトクロッサーであり，そしてそれは決して忘れることのない，鼻腔をくすぐるカストロールオイル R30 の植物性オイル特有の「香り」をぶちまいていた。それ以来，私はいつかモトクロスをやろうと心に決めていた。しかし夢は実現せずに高専・大学時代は過ぎた。それでも，その間五台ほどの一般公道走行用のバイクを乗り継いだ。

大学時代はよく 125cc のオフロードモデルで東七根の海岸から浜名湖の弁天島まで波打ち際を 90 km/h ほどでよくかっ飛んだものである。（今考えれば私も若かったものだ。ひとつ間違えば……。）

そんな私が大阪の松下電器に就職して実家に戻って数ヶ月たったある日，近所のバイクショップの前にあのあこがれのスズキワークスカラーの黄色いモトクロッサー RM250（'83型）が売りに出されていた。一般にレーサは毎年秋に翌年の新型が発売され，春先には売り切れるのであるが，前年度のレース結果の良くなかったスズキの RM は人気が下がり，それは売れ残っていた最後の１台であった。在庫処分の 10 万円引きの 35 万円。私はすぐさま６月のボーナスならぬ金一封と月々の貯金を全額引き出し，その黄色いやつを買ってしまった。それ以来，日曜日は冒頭に書いた通りである。更に昨年には，２台目の RM250（'86年型）を購入した。ライデング技術の方は，ふたつ続きのジャンプ台を一度に飛び込したり，台形のジャンプ台を飛び込える際に空中でハンドルを切ってカウンターを当てたりするテクニックも身に付け，ノービスクラスの予選レースならなんとか最下位にならないレベルに達したと自分では思い込んでおり，ますます熱中するしまつである。

今年の 11 月で 28 歳，そろそろ嫁さんをという声が周囲から聞かれるが，こんな危い事は妻子持ちには出来ないから結婚はしないという言い訳を盾に女性には目もくれず，（本当は相手にされていないのだが，）土とほこりまみれの日曜日をエンジョイしている。

昭和 57 年　電気・電子工学課程卒業

吉 村 和 敏

私の趣味は自転車です。と大きな声で言いたいのだが，会社に入ってからは，自転車でどこにも出かけていない。会社と寮の往復ぐらいだ。

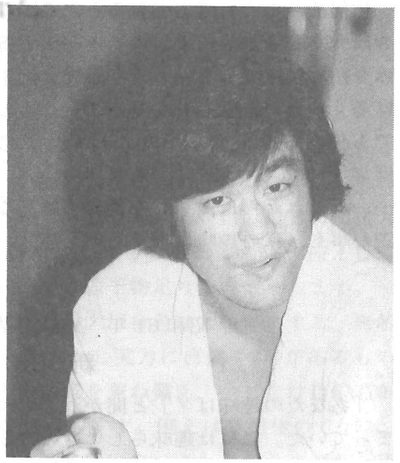
私が自転車に興味を持ち始めたのは，中学二年の時で，それから，受験勉強のブランクを経て，本格的にやりだしたのは，高専に入学してからだった。

最初の旅行は，なんと，いきなり九州一周だった。が，しかし，途中鹿児島でバテて九州半周になってしまった。

高専時代には，山陰などいろいろと走り回った。

そして，技科大では，最後の夏休みに自宅（北九州）まで自転車で帰ろうと意気込んで飛び出したのはいいが，これも途中（といってもすぐだけど）名古屋でバテて，友人の所にやっかいになってしまった。この時，初めて運動不足を感じた。（大学時代は何も運動らしきものはしていなかった）

それから会社に入り今では，もっとひどい状態になってしまった。自転車は，パンクしたまま物置きの中だし，体のほうも，ちょっとした運動で，息切れするようになった。（酒とたばこの飲みすぎという噂もあるが）



ということで，体にいい事，何かやってる？　じゃないけれど，皆さんも仕事が忙しいでしょうけれど，定期的に運動するようにして，体を鍛えましょう。

昭和 60 年　建設工学専攻修了

稲 田 　 寧

私が大学を修了して就職（京都市）してから，はや一年と少しばかりの月日が経ちました。社会人としての生活にも慣れ，最近では私もすっかり公務員さんが定着してきましたが，同窓生の皆様方は如何でしょうか？仕事が忙しく毎日がたいへん！という方も多くおられると思います。そんな生活の中での，たまの休みの日には，趣味で一日を過ごしてストレスをパッと解消するのが一番だとは思いませんか？私の場合，趣味が学生時代と現在では変わりました。と言うのも，学生時代は趣味と言えるものが殆どなく，強いて言えばミーハードラマやベストテン番組を見ることでした。テレビが趣味!?　なんてバカにされるかも知れませんが，卒論や修論でイライラしている時など，随分救われた気がします。なんだかちょっと暗いですが，やはりガールフレンドのいなかった者の辛さでしょうか？

そんな私の，就職してからの趣味と言うのが，テニスとエレクトーン。毎日きっちり５時に仕事が終わるので，何かを始めようと思って選んだものです。この２つ，共通点があるのですが，何だかわ

かりますか？実を言うと，初めからテニスやエレクトーン自身に特別興味があった訳ではなく，女の子が多くいるからという理由で始めたのです。それが続けているうちに，だんだん本当に面白くなって来たと言うのが本音です。両方とも去年の６月頃から教室に通い始めて，この一年間本当に楽しく過ごせました。でも最近，何だか物足りなくなってきて，一体何故だろうと考えて見ると，今の仕事が大学での研究室とは畑違いで，マスターまで行って得たものを殆ど使っていないと言う事でした。こういう事は多くの方が経験されていることかもしれません。でも僅か３年間だったけれども，研究室で学んだ世界をどんどん忘れて行くのはもったいなくて……，これからは，そんな世界の雑誌などを斜めに読む事も，私の趣味に加えたいと思っております。

昭和61年　建設工学専攻修了
新田浩二

「あなたの趣味は？」と聞かれていつも困ってしまっていた。私には趣味らしいものはないからである。

就職してすぐに始まった研修期間の初日にあった研修の中で，仕事でのストレス解消のためにもぜひ趣味を持つようにという勧めがあった。仕事だけの生活が精神的に良くないということである。

私も何か趣味を持ちたいという気持ちはいっそう強くなった。以前から何とかマスターしたいと思うものの一つにギターがある。今さら，この年になってギターなんてと思われるかも知れない。自分でもどの程度まで上達できるのだろうかと思う。しかし，なぜ，今ごろからギターなのか。それは，一つの願望があるからである。

私の尊敬する技科大の先輩の１人にギターが非常に上手な人がおられた。ただ，上手なだけでなく彼には暖かいスピリットがあった。それはこの人の信じているイエス・キリストを讃美し，キリストをほめたたえようとする内的パワーとも言える。キリストに対する熱い思いが，そのギターと讃美の中から私の心に強くつたわってきた。

私も又，こんなにすばらしい讃美をギターのしらべに合わせて，生き生きと歌いたいと思った。自分の手と自分の口を通し，熱い思いをもって，愛するキリストを讃美したい。そのために，ギターは良きパートナーとなってくれることだろう。そして，その時間は，常に新しい情報を要求され，目まぐるしく変化する現代社会の中にあって私にとって心のオアシスとなることだろう。

社会に出て気付いた技科大生気質

「新しい仕事への挑戦」

昭和55年　エネルギー工学課程卒業
村岡祐介

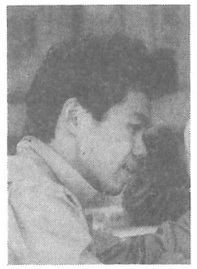
早いもので大学を卒業してから七年が過ぎようとしています。四年七ヶ月勤めた造船会社を退職して現在の会社に転職してからも二年以上が過ぎ，改めて年月の早さに驚かされます。

以前は発電プラントの基本設計に従事していましたが，現在は半導体製造装置のシステム開発を担当しています。個々の要素が技術的にほぼ確立している機器をプラントとしてアレンジする仕事から，技術的にも不確定で世の中に製品としてない物を作り出すという雲をつかむような仕事へと，仕事内容自身も大きく変化しました。

半導体製造装置の歴史や技術の蓄積もなく，ほとんどのメンバーが中途採用で開発を始めたわけですが，ふと気付くと何か大学時代と似ていると思われるのです。一期生として期待と不安と気負いを持って豊橋へ着いた時のことが思い出されます。その日は雨まじりの強い風が横なぐりに吹き付け，寮への道もじゃり敷きで，足は泥々体はびしょびしょになってやっとの思いで部屋へたどり着きました。もちろん研究棟や実験棟の設備も少なく先生方もまだそろっておられませんでした。また，私はサッカー部に入っていましたが，グランドとは名ばかりのキャタピラの跡で凸凹になった土地を平にしながら練習に汗を流したのを覚えています。

会社の話に戻ってみると，周囲には組織，技術蓄積の不備や明確な指針がないことに不満を言ったり，自分の専門技術にこだわり可能性を小さくしてしまっている人たちがいます。この人たちと私にはどこか違っている所があるように思います。私の新しいことに積極的に挑戦する姿勢は，歴史のない所から出発して後輩に何かを残そうと頑張った大学時代につちかわれたものだと思います。これが私が個人的ではありますが，社会に出て気付いた技科大生気質であると思います。

昭和58年　エネルギー工学専攻修了
藤井正沸



“技科大”と聞くと，ずいぶん久しく感じるのですが，別に無人島を漂流していた訳ではありません。実社会で四年目を迎かえただけでずいぶんと懐かしく思えてきました。

福島県に就職したのですが，ここから技科大が遠く感じるのは，地理の単位が不足していたせいではありませんでした。見知らぬ土地へ来て，この間土地に慣れ，人に慣れ，仕事に慣れ，これらに専念していた結果なのです。

思えば三年前は，北海道と三河弁の入り混じったおかしな訛の貧乏青年で，毎朝作業服を着てオンボロ車で職場に向かうのでした。現在では，貧乏に変わりはないのですが，すっかり福島訛（NHK連続番組「はね駒」を見ていただければ想像がつきます）を身につけ，なるべく時間ぎりぎりに職場に駆け込み，いつの間にか仕事が始まる毎日の勤務と帰る家には妻の居るオジサンになってしまいました。その間，技科大の事を思ったのは友人からの風の便りと，希の出張で通過する豊橋駅を見た時だけでした。先日，地元に戻ったという技科大の先輩にお会いした時は，思わず涙が…（これは大げさ）。

新入生として技科大を訪れたほとんどの青年は，遠く故郷を離れ大学生活で暮らした数年間のうちに，名も知らぬ地で育った隣人が親友となり，大学の研究室には忘れられない思いをたくさん残し，下宿生活をしているうちに，大家のオバチャンと親しくなり，つい三河弁が移ったという人も多勢いるはずです。

その後社会に出た技科大生は，とかく技科大の事は忘れがちだと思うのです。それは大学生活にも見たあの毎日の熱心さのあまりと思えます。しかしそれだけに技科大で得た経験は体内一部となり，気づかぬうちにどこかその行動が技科大生活と同じ事を繰り返していたという事はないでしょうか。

技科大自身は社会のほんの一部であるためか，技科大を思う事はほとんどなかった。それは，人間が生きてる上で手足を感じて生活していない様に。気質と言えるかどうか分かりませんが，そんな事を社会に出て感じました。

昭和58年　生産システム工学専攻修了
高野博司

学生時代が一度しかなかった私が，技科大生と他の大学生とを客観的に比較することはできません。それでも数少ないサンプル（御免なさい）の観察報告として少し記してみます。

社会に出るとよく出身大学について話題になります。他の大学出身者について言えば，ある名門私立大学出身のＡ君は，やっぱり一流大学出だという自覚を強く持っていて，それが言葉の端々に現れます。少し煙たいその言葉の向こうに，僅かに本当の彼が見えるという具合です。反対に，地方の国立大学出身のＢさんは，どちらかと言えば，控え目，消極的，悲観的で，若干物足りない気もします。

それでは我が技科大出身者はといいますと，無名大学出だから，しかし実力に自信（？）があるものだから，両方の要素を兼ね備え，少しだけ自信過剰で，少しだけ悲観的です。例えば卒業生のＣ君は，彼の主張が認められていないことを知りつつも，我が行く道を行っていますし，Ｄ君は，口に出さないけれど，無気味なほどの自信に満ち溢れて働いています。二人とも，まだ名の売れ切れていない大学出身だから，出身大学は認めてもらえないことを承知していて，ただ「今に見ていろ」という意地だけで頑張っているのでしょうか。

結局，「自分は，○○大学出身だぞ」という空威張はなく，「今に見ていろ」という意気込みだけは，しっかりとあるのです。そんな技科大出身者が，社会で高い評価を得てきた，それもなるほどと思います。

「田舎に集まった田舎者」

昭和58年　電気・電子工学専攻修了
森山繁樹

就職して丸３年になりますが，時々，技科大卒の仲間と酒を酌み交わすにつけ感じるのは，みんな変わらないなということです。もちろん，仕事面では入社当時から考えると数段の進歩がありますが，仕事を離れた時間においては，まだ学生時代の若々しさが継続しているように思います。

もともと，全国中の田舎から出てきたニイちゃん（又は，ネエちゃん）たちが，豊橋という大都会に集まったわけで，その人間の雑多さには，誰しも驚き感動したと思います。その個性的な人間たちが，

不思議な結合をした場が，技科大そのものです。従って，各個人は，適合性に富み，同化力が強いと思います。

しかし一方では，各個人の独立心が非常に強く，会社においても，強い帰属意識と一体感がある反面，どこか一匹狼的（いい意味での）な生き方をしている卒業生が多いように思います。それだけ，自己又は学校に対するプライドが高いのかもしれません。

残念なことに，技科大は，まだ卒業生が少ないこともあり，現在では，一部の玄人ウケする大学というイメージから脱却していません。「豊橋技術科学大学」とフルネームを知っている人は少ないようです。今後の我々卒業生の頑張り如何にかかっています。

いずれにせよ，もともと超雑多な技科大生を一律の気質枠に入れるのは不可能なのかもしれません。

以上，技科大生についての一個人の一考察として聞いてもらえれば幸いです。

昭和 59 年　物質工学専攻修了

松　岡　孝　彦

世間では本当に様々なことが起こっていると学生諸君はなんとなく想像しているだろうが，実際に社会人になり物事に直接かかわりあいを持つと，予想をはるかに越えた出来事が信じられない所で発生してしまうことに驚かされる。またこれらのことが物の見事に結末を向かえて納まってしまうことが不思議でならない。

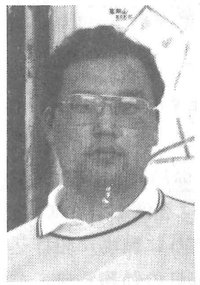
良質で優秀な技術者を安価で多量に供給できる仕組みになっている日本は，高度に技術発展を続ける世界の中を全速力で突っ走ってきた。今後も少なくとも 21 世紀まではこの国は疾風の如く歴史の中を走り抜けていくことであろう。豊橋技科大もこの国日本の中で，技術科学を学習した若人を毎年毎年世に送り出しつづける機関の一つである。ここで技科大生気質について思い当たることを述べてみたいと思う。

技科大生は，世間一般のいわゆる平均的大学を出た人に比べて科学技術をよく勉強してきているし，物事に対する適切な判断力を十分に備えていることと思う。さらに自分自身の気持ちの切り替えが上手に出来るということが，世の中のちみもうりょう，奇妙奇天烈な運命を乗り越えていく上で最も頼りになる手段でありうるのだが，この点においても私の知りうる技科大生は自分なりのやり方，mind control が巧みである。自分自身の特性がどこにあるのかは，なかなか本人にも解かりにくい，一生をかけて見い出すものかもしれない。世の中において技科大卒ということ自体，社会の構成員の中で特異なものであるということを肝に銘じて，自己確立を一層確かなものにする努力を続けられるよう後輩達に期待します。

「技科大生の特徴」

昭和 57 年　物質工学課程卒業

田　代　義　和



技科大生の性格を語るには，数多くの人と接したわけではないが，主に私と気が合う友達を参考に主観的にまとめてみた。

（特　徴）

① 教養がない（一般的な）

② しかしある分野については，特に優れた知識と才能を持っている（専門バカ）

③ 実戦派タイプ（考える前に行動する）

④ やる気と根性だけは持っている（田舎学生そのまま）

上記の特徴は一見欠点と思われるが，会社においては実に良い性格となる。例えば，

① 教養がない→外見を気にせず，どんな泥臭い仕事でもできる。

② 専門バカ→近年スペシャリストが求められている。

③ 実戦派タイプ→世の中やってみないとわからないことが多い。

④ やる気と根性→会社によってはこれだけでも通用するところもある。

これらの性格は，技科大生の 4/5 が高専卒であるため，高専時代から培われた性格と思う。

① 高専では一般教養はほとんど教えない。教えても勉強しない。

② 高専からず～と同じ分野を勉強しているため多少の知識は付つ。

③ 高専時代から実験・実習ばかりやってきた。

④ ほとんどの高専は田舎にある。当然技科大も……。

本人にとって，これらの性格は嫌いな人も多いと思う。しかし，会社に入ればこれらの性格が自分を伸ばすための下地となり得るものと思う。

昭和 61 年　電気・電子工学専攻修了

吉　田　智　達

社会人としてスタートを切った４月から数えて4ヶ月余りが本当に目まぐるしく過ぎ去った。会社に入った当初，歓迎会などで交わされる会話はまず出身はどこかとか，出身の大学はどこかということであろう。その時，否応なく自分が技科大の修了生であることを強く自覚することになる。はっきり言って私自身，技科大生であった頃，「私は技科大生である。」というような強い自覚を持つことはあまりなかったように思う。もちろん，学会などで発表するときには技科大を自覚することはあった。しかし，普段の生活の中ではそのようなことはほとんどなかったし，その必要もなかった。ここで私の言いたいことは，次のようなことである。つまり，大学を出て今感じることは，もっと大学時代に技科大生としての活動をしてもよかったのではないかということである。たとえば，このような話を聞いたことがある。日本人で日本にいる時は日本についてまったく無感心の人でも，一旦外国に出ると愛国者にならざるを得なくなるというような話である。これを技科大生の場合に当てはめてみると，技科大生にはやや愛校心，あるいは学生全体としてのまとまりに欠ける点があるのではないかと思える“ふし”があり，そこで，この点を少しでも改善するために，自分が否応なく技科大生であることを自覚するようもっと対外的な活動を多く行ったらよいのではないかと思うわけである。

最後に，少し話は変わるが，最近読んだ本の中に次のようなことが書かれていた。それは，今の日本はハイテクノロジー一色であるが，今後は「テクノロジーよりサイエンス」へと切り換えていく必要があるという話であった。ここで，ふと思ったことは，技科大はまさしく技術科学大学であり，だから，TUT も Toyohashi University of Technology and Science としたらどうかということである。これは少し余談でした。

私の失敗談

昭和 57 年　物質工学専攻修了

牛　島　裕　次

「大学を卒業して，すでに五年目に入り，歳月のたつのが早いものだと感じています」といった書き出しは，投稿された方の決まり文句でしょう。多分にもれず私もそう感じています。来年で大学が創立十周年と聞いてほんとに月日が流れるのが早く感じられますと同時に豊橋技科大生の活躍を巷で聞くたびに嬉しく思い励みとしているしだいです。

社会人になって五年目，私共にとって，失敗の数をあげれば十本の指と足の指をつかっても足りないくらいではないでしょうか。仕事の事はもちろん私生活においても失敗の連続です。他人の失敗談を参考にして，自分は失敗しない様にしようと思ってもうまくいきません。自分の体で味わってみなければわからないというのがほんとのところだと思います。それでも，このテーマで書く気になったのは多少なりとも自分への反省としたかったからでしょうか。

私は，現在，東洋カーボン㈱という中小企業の一応研究部門と称するところに勤務しております。研究部門といっても，大学の研究室を三つくらい合せた様な小さなものですが，それでも毎日の様に問題がおこります。大学時代とはちがって，自分の研究テーマを進める為には，他人の手をかりなければ仕事は進められません。それが自分でやったほうが早いとわかっていてもです。自分の父親に近い年齢の人と仕事をする訳ですから，人間関係というものは難しい問題です。しょっちゅう口論をしては，しかられています。これの繰り返しです。わけもわからず，どなりつけられ，二，三日，口もきかれなかったことがありました。これが自分の上司だから手におえません。素直にあやまって，誤解はとけたのですが，感情的になられるとこまったもんです。これが逆に現場サイドの人に対しては，むしろ，腹の中を割って話した方が良い場合があります。人間関係をだれとでもうまく保つ方法といったものは無いようです。ただ，自分の仕事をやっていく為には，率先していやな仕事をやってくれる仲間を一人でも多く現場の中につくることが必要です。そのためには

「自分を飾らず，きどらず，ありのままを見せる」という恩師の語が思い出されます。

最後に，小さな会社ですが，すばらしい上司に出会えた事，尊敬すべき師と出会えたことを感謝するとともに，今も豊橋技術科学大学が創立当時の，変にきどらない，自由な雰囲気のある大学であってほしいと思っています。あの何もなかった時，皆でつくりあげていた大学の雰囲気を残しつつ，今後の発展を祈ります。

昭和 58 年　情報工学課程卒業

村 田 雅 春

技大の名を背負って社会に出られた皆さん元気に頑張っておられることと思います。私もその一人でありまして中国電力㈱に入社し，現在関門橋の見える下関発電所に配属され，早４年目になります。その間発電所の運転を担当する運転課に運転員として三交替を１年半，その後同発電所保修課電気係に異動しまして現在に至っております。

入社当初，自己紹介において技大と名を出してもほとんどの人は分からず，つづいて豊橋と言っても分からず，伊良湖岬の近くですと言えばますます分からず，最後にうなぎの浜名湖の近くですよと言ってだいたい？　分かってもらえたようでした。どうも豊橋という位置がはっきりと分かっていないようです。それ故，豊橋技科大と言っても分からないのが当然と言えば当然であるが，寂しいことでした。

話は変わりますが，誰でも会社に入って年数の浅い頃は多少の失敗をするものだと思います。私も例外にもれず多くの失敗をしています。最も頻繁に繰り返し起こすのは金銭関係と人間関係です。

まず金銭関係ですが，現在の部署に移ってから機器の修理ということで修理を発注するのですがその発注に先立ち予算を出さなければなりません。この予算については会社に積算体系があるのですが，ついつい工事を自分の理想に沿って予算を出してしまい実積との差が大きく出ることがあります。その１つの修理の裏にはいろいろと付随する見えない予算が必要であることを思い知らされました。

次に，金銭がからむと必ず出て来るのが人間関係です。この人間関係は金銭よりもやっかいなものです。これに関する失敗を出すときりがありませんので書き控えたいと思います。みなさん方も同じようなことを経験されていると思います。これを思うと何も言わない機器がどんなに扱い易いか知れません。しかし今は，この現実と戦っている毎日です。

番　外　…豊橋編…

昭和 61 年　物質工学専攻修了

山 下 行 也

今春大学を卒業した私にとって，まだ半年しか経っていないが，豊橋での日々はすでに琥珀色の想い出となっている。

観光地と呼べるものはほとんどない。しかし，旅行好きの私にとって今，最も訪れたい街が豊橋である。

…大学三年の秋，駅前の精文館に行った私は，その一階で働いている一人の女性にひどく心を奪われてしまった。その後，私の精文館通いが始まった。

「本棚の隅の見つけにくい本を捜してもらって，印象付けろ!!」

と，無責任な友人の言葉を信じて，バイクを飛ばしては読みもしない本を買っていたものである。

一ヶ月位経ったある夜，バイトの帰りにバイクを飛ばしていたら，バス停で一人立っている彼女を偶然にも見つけてしまった。

「これこそ天が与えてくれたチャンス!!」

とばかりに，「あのー。精文館の○○さんですね。」（名前は制服の名札を見て知っていた）と言うと

「はい…，そうですが…?!」

と，彼女はびっくりしたように答える。

「僕とつき合って下さい!!」

「え?!　私，今つき合っている人がいます。」

泣く泣くバイクを飛ばすと，柳生橋の上でバイクは壊れ，オーギの前まで押して行くと雨に降られる散々な夜であった。

何のことはない，ただ単に無謀なのである。でも，あの頃はそれが若さだと信じていた。

もうあれから四年が経つ。今，その当時のような無謀さを失くしかけている自分に少しの寂しさを感じながらアルバムを見ている。

観光地と呼べるものはほとんどない。しかし，今最も訪れたい街が豊橋である。

ざっくばらん …And So On

「思い出すままに」

昭和 57 年　エネルギー工学専攻修了

結 城 昭 正

宝塚の山中にある社宅で，この原稿を書いている。眼下に広がる美しい大阪の夜景を眺めていると，天伯のハエを追い払いながら，慣れない赤ダシを飲んでいたのは遠い昔の出来事の様に思える。一期生として技科大を出て５年，長い様な短い様な月日が過ぎた。

私は，修士修了と同時に三菱電機に入社し，以来，尼崎にある研究所で燃焼機の研究開発を行なっている。５年間も一ヶ所に居ると一人前に見られるのであろうか，最近，急に仕事の任され具合が大きく成ったのを感じる。良い意味にも，悪い意味にも，私に対する周囲の評価が決まってきたのであろう。これと同時に，社内の事柄に関する私の知識も増え，以前に比べ，ゆとりを持って仕事を熟せる様に成ってきた。これは，上司，先輩達の社内における権限や能力，それに性格をほぼ把握出来たからであろう。

入社間もない新人の頃は，こうは行かなかった。どの人も非常に優秀そうで偉そうに見えたものである。その反動であろうか，私は会社全体を相手に張り合う気分でいたのを思い出す。入社３，４ヶ月目頃の事である。群馬にある家電品製作所で見学を兼ねて研修を行なった事がある。その時，新しい掃除機のアイデアを思い付いたので，特許にまとめ設計者であるＡ氏の意見を伺ってみた。結果は，「実現は困難であるが，おもしろいので参考にさせていただく」であった。私は，会社全体に誉められたかの様に錯覚し，非常に興奮したのを憶えている。今思えば，当時のＡ氏は現在の私とほぼ同じ立場の人であり，氏の言動には何の責任も権限もない。あの興奮は，正に新人ならではの特権であったと，懐かしく思い出す。

しかし，そこに一抹の恐ろしさも感じるのである。何故なら，あの不相応な興奮は過度の緊張により増幅された物であり，この過度の緊張は落胆をも同様に増幅するからである。もし，あの時，何か失敗をしていれば，きっと必要以上の不安感に嘖まれたであろう。ちょっと冷汗の出る思いである。現在，新人をやっている人がいたら，もう一度冷静に周囲の分析をやり直す事を進めたい。

偉そうな事を言ってしまったが，私もまだ入社５年目，新人に毛が生えた程度である。今から10年あるいは20年の後に，現在の私を振り返った時，きっとまた，冷汗を流すことだろう。

（S. 61. 8. 16記）

「こちらデトロイト発」

昭和 55 年　情報工学課程卒業

勝 野　　修

どんよりとした寒空のもと，社命とはいえ最果ての地，アメリカはミシガン州デトロイトへ飛ばされて早２年半が過ぎ去りました。

デトロイトと聞くと私も含めたいていの人は，煤

煙立ちこめ，うらぶれた工場が立ち並ぶ，かなり悲惨なイメージを抱くものです。事実ダウンタウンにはそのイメージがありますが，我々日本からの出向者の活動拠点となる地域はダウンタウンからほんの車で30分から１時間位のところですが，緑と湖が多く非常に快適な環境にあります。

さて，そんなところで私が何をしているのかと言えば，決して毎日ゴルフやテニスに興じている訳でなく，週末以外は生活の為セールスエンジニアなる肩書きのもと，デトロイト中を走り回ってお客様(主にGM)と担当製品に関する技術打ち合わせ等をしております。

もともと英語嫌いで技科大時代には非常に苦しめられたこの私が，何の因果でこんな仕事をしているのかと，ふと人の生きざまなるものを考えることもあります。しかし，純粋なエンジニアリング業務が私の性分に合っていないことは明らかであり，東へ西へと演歌をガンガンならしながら，青い目のお兄さんを相手に走り回る今の自分に充実を感じる今日この頃である。

品質の（技術ではない）メイド・イン・ジャパンを旗印に奮闘してはおりますが，最近の円高により非常に仕事がやり辛くなってきているのは事実であり，技術大国ニッポンにややかげりが見えてきた感あり。ふんどしを締め直しますか。　–END–

P. S.　53年度入学の電気・電子，情報の皆さんへ。小生，次回クラス会の幹事を仰せつかっておりますが，63年の夏位に地元愛知県にてと考えております。その際には宜しくお願いします。

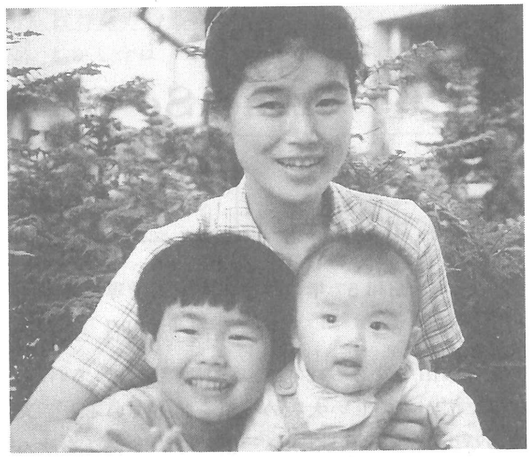
「私にとっての10年」

昭和57年　建設工学専攻修了

川口良子

「豊橋技術科学大学十年史」発刊の知らせを受け取り，月日の流れの早さに驚いています。私も今や２児の母。大学院修了後まもなく長男を，そして今年２月には次男を出産して，家事，育児，仕事に追われる慌ただしい毎日を過してきました。そんな私にとって，学生時代は懐かしいとともに，一種の後悔を含んだものになっています。

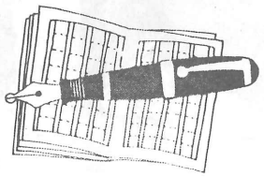
現在，仕事は，子供の眠った合間に，趣味程度に



続けています。趣味といえば聞こえはいいのですが，その程度にしかできないのが現実です。ただ，零細設計事務所のこと，忙しくなれば，締め切りに追われて，趣味などとは言っていられず，義母の協力を仰ぎつつ，奮戦しています。仕事の内容は，建築設計，インテリアから都市計画と，多岐にわたり，どれも大事な“飯の種”。手を抜けば飯の食い上げ。１つとしていい加減にはできず，四苦八苦します。私は専ら都市計画をやっていますが，学生時代の勉強不足を嘆きつつ，本をひっぱり出して勉強しなおすこともしばしばです。そして，本を読みながら，“ああ，あの時はこのことを言っていたんだ”と今になって納得したり，“今だったら，もっと一生懸命勉強するのに”などと勝手なことを考えたりしています。自由で気儘な学生時代が，ただただ懐かしく，そして，無為に過してしまった時間が恨めしく思われるこの頃です。

しかし，時間の余裕の無さを嘆きつつも，子供がいるおかげで，仕事に張りがあり，仕事をしているおかげで，勉強にもリアリティが出てきました。ともかく，この調子で，家事，育児や仕事が続けていけたなら幸せだと思います。

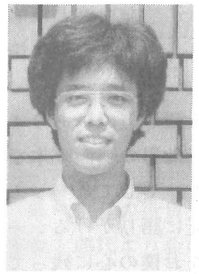
私も，こんなことを考えるようになったのですから，10年てやっぱり長いですね。この先の10年後は，いったいどんなことを考えているでしょうね。



「建設屋かテクノクラート？」

昭和57年　建設工学専攻修了

三好尚文



豊橋技科大の皆様並びに卒業生及び修了生の皆様，お元気で御活躍の事と思います。この度長らく待っておりました同窓会報が発行される事となり喜ばしく思っております。

私に執筆依頼が４つのテーマの中で記すようにとありましたが，どれも私にはむずかしいテーマでありましたので，それにはとらわれずに私の職場を中心とした近況を書きました。在校生の皆様や公務員への転職希望の方々の参考になればと思います。

私は現在，京都府土木建築部都市計画課というところで働いています。いわゆる地方公務員（技術職）です。公務員は大きく技術職と事務職の２つに分けられますが，前者はほとんど一つの部の中で異動して仕事をするのに対して後者は府庁全体の部の中で異動します。技術職はそういう意味でエキスパート的であるのに対して，事務職はジェネラリスト的になります。どちらが良いか一概には言えませんが，ポストの多い事務職は一般的に出世が早いのに対して，他方は直接的な責任が問われる事が多い割に出世は遅く，全建等でアピールしてもらっていますが，まだまだで，これから我々が頑張らねばならない課題です。

将甲は上級（大卒）と初級（高卒）に分けて行われますが，給与面で差はありません。初級で入っても５年目には同齢の大卒で入る人と同じです。もちろん男女格差はありません。二浪などして一流大学といわれるところへ入り，わが社へエリートだと思って入って来ても給与は高卒の同齢の人に比べて２年分は低いし，仕事は実力ですのでキャリアのメリットは無いに等しいのです。

先日は技科大出身で民間に勤めている友人達と給与について話をしたのですが，私の方が年収にして百～２百万円（1986年価格）も少なく大きなショックを受けて来たところです。

こうしてみると，技術職の公務員はあんまり待遇では良いとは言えません。だんだんグチになって来ましたので次に仕事について書きます。

公務員の仕事は基本的に法や条例等を根拠に行わなければなりません。自分の感覚でなく法文に依るのです。このことは法というシステムが人々の活動を制御していると言えるかもしれません。そういう意味で工学的な世界と通じる所があるように思います。

その中で私は都市計画法を中心とした仕事にたずさわっています。市街化区域，市街化調整区域，地域地区，地区計画等の土地利用（規制）の策定です。最近の動きとしては，円高による輸出不振のため内需を拡大して経済の活性化をはかろうとするものがありますが，そのためには上記土地利用規制を緩和しようという事が言われています。

我地域の京都府について申しますと，南部では京阪奈丘陵において関西文化学術研究都市の建設が始動しだしました。技科大出身の方もここで研究活動をされる方があるかもしれませんね。中部では田園都市，北部では中核連還都市や丹後レクリエーション基地建設といった動きがあります。

先頃の新聞で四全総について，関東は金融・情報，中部は産業・技術，関西は文化・学術というコンセプトが設定されるようにありましたが，中部はまさに，我が技科大なくしては成り立たないと言えるのではないでしょうか。地域に根ざした技科大の発展を心から祈ります。

「時々気になること」

昭和56年　物質工学課程卒業

曽我部　敏明

技術科学大学，誠に風変わりな名前である。科学技術の発展は……，国は仏との科学技術の分野での協力を……等々が，世の中では普通である。従って，私は入社六年目になるが今だに豊橋技術科学大学と正確に言ってくれる人は珍しい。出版物ですら科技大とか科学技術大学と印刷されているのが目につく。それ位であるから，技科大なるものが世の中に存在し，多少なりとも大学のシステムについて知っていれば，その人はかなりの博識であるような気がする。創立十周年になった今でも，大学の説明には苦労を要すのは現実である。大学と直接関わって生きているわけでもないから知名度の低さなどいちいち気にしてはいないが，大学に関する話になる度に，自分はまだどこにも根づいていない異邦人か宇宙人

のように感じてしまう。

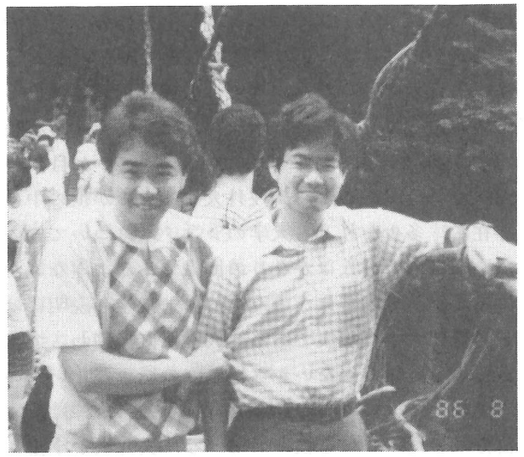
名前に話が戻るが，こんな風変わりな名前にもかからわず，どんな理由で命名されたか説明を受けたことがない。そもそも，この大学は，新構想大学という唱い文句で創立されたはずである。それならば，新構想とは具体的にどういうことか，なぜ，技術科学大学と命名したのか，学生や一般の人々にもっと明確に説明し世間の理解を得ることが必要だろう。そうすることが，学生の質を高めたり，産業界等の理解を得る上で有効な手段の一つではないだろうか。

いくつかの大学は入試改革の問題の中で，それぞれの大学の特長を打ち出し世の中に大きくアピールしている。新構想の先がけである。豊橋技術科学大学も創立十年を期に，命名の理由，新構想とは具体的に何か等々を，もっと世界に訴え，宣伝し，理解を深めてもらってはどうだろか。

「思い出のシネマティーク」

昭和 60 年　電気・電子工学専攻修了
加　島　　篤

とあるタウン誌の片隅で，その映画館の上映スケジュールを見かけたのは，就職が決まった年の秋でした。さっそく研究室を休んで名古屋の今池へ行き，古びた雑居ビルの２階にある「名古屋シネマティーク」を訪れたのですが，ベニア張りの場内とあまりに小さなスクリーンは，広小路にあった「みゆき座」以上でした。もちろん上映途中の入退場は許されず，お菓子を食べていた子供が食べ終わるまで開始が延ばされ，席に座れなかった人がスクリーンの手前でゴロンと横になったときには，その異様な雰囲気に完全に飲まれていました。フィルムは，エルデン・キラル監督のトルコ映画「ハッカリの季節」で，トルコ東南端の高地に住むクルド族遊牧民の冬の定住地に，小学校の教師としてやってきた男の一冬の経験を描いたものでした。美しくも過酷な自然と疫病と因習につつまれた寒村の情景は，今も鮮やかに憶えています。



僕はそれほどたくさんの映画を観る方ではありませんが，この作品を見て以来第三世界の映画や本などに興味を持つようになりました。そして「ハッカリの季節」で，村を去る教師が生徒に語りかけるシーンの次のようなスーパーは，今なお僕の心に残っていて，新しい映画を観るたびにあれほど印象的な言葉はなかったなと思ってしまうのです。

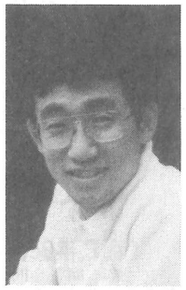
「私から君たちに一つだけお願いがある。学んだことをすべて忘れてもいい。地球は回転している。それはその通りだ。だが，それが役に立つとは限らない。人生についても教えたつもりだ。しかし，本当に必要なことは自分で学ぶほかはない。この山村で兵役の地で。本がいつも正しいと思ってはいけないよ。先生にとって正しいことでも，君たちには正しくないことだってあるんだ。私が教えたことも同じかもしれない……。」

大学へ進む者，地元に留まろうとする者，そして遠い都会で働こうとする者。それぞれの進路を決め，それぞれの希望と不安に満ちた目をしている僕の初めての卒研生達を前にしていると，何のアドバイスもしてやれないことへのちょっぴりの焦燥感とともに，あの字幕の言葉がとてもとても重く感じられてくる今日このごろです。

同窓会事務局より会員の皆様へ

＊会長就任あいさつ＊

昭和 58 年　電気・電子修了
西　澤　　一



昨年三月の役員会にて先代の鈴木寛太郎氏より会の運営を引き継ぎ，以来会長代行を務めて来ましたが，先の第三回総会で会長として承認されました。

三年後の第四回総会まで微力ながら会運営の正常化のために下記方針にて活動して行きたいと考えますので，皆様の御協力をお願い致します。

会運営の基本方針

1)　会員名簿２号は（1-7 期）を範囲として３年後の 64 年度に有償（2,000-2,500 円）で発行，会報は毎年１号（無償で）配布する。
2)　長期収支計画を見直し，必要な対策を実行する。
3)　名簿管理のコンピュータ化を行う。
4)　大学内に本部を置いて，会員からの問い合せに対応できるよう大学側と交渉を始める。
5)　役員個人の自己負担を補償し，役員会の活動を活性化する。

上記方針中 2）については，第三回総会にて会則改正という形で一歩を踏み出しましたので総会に出席されなかった会員皆様のために少し説明いたします。詳細は後出の総会報告を参照下さい。

会則改正の主要点は

1)　終身会費 5,000 円を入会金 3,000 円，年会費 1,000 円に切り換える。
2)　定期総会の開催を毎年一回から三年に一回に改め，代りにクラス代表よりなる評議会を設けて，各年度，予算・決算の承認を行う。
3)　新設の大学院博士課程在籍者が正会員であることを明確にした。

の三点です。

このうち特に改正点 1）は最も緊急かつ重要な問題であり，本年度三回にわたる役員会での最大審議内容でもあるので更に詳しく述べます。

改正理由は，収支の赤字転落防止および会員間の不平等防止です。赤字転落について昭和 60 年度からの繰越金が 500 万円あることから一見不思議に思われるかもしれません。しかし毎年会報（無償）を発行すれば，現行役員会の活動方針で４年後に，また役員を入れ替えて支出を圧縮した場合でも９年後に赤字転落が見込まれています。（長期収支計画案参照）収入が毎年一定額であるのに対し，支出は会員増とともに増加するのですから赤字転落は自明であり，問題はその時期のみです。

会員間の不平等とは，例えば１期の会員が昭和 60 年度までに平均 1,800 円相当のサービスを受けており，これに加えて 61 年度以降毎年 1,000 円弱のサービスを無償で受ければ，終身会費以上のサービスを後輩の負担金で受けることを示します。（同窓会活動実積参照）すなわち，赤字転落までの間に，旧会員ほど受益が多く，新会員ほど少ないということになります。

終身会費 5,000 円で会の活動を維持できず，しかも会員間に不公平が生ずるのを防ぐためには，会費の見直しかサービスの低下（例えば，正会員としての三年目以降の会員への会報配布は取り止める。）しかありません。しかしサービスの低下は同窓会存続の危険を含むと考え，役員会としては会費見直しの道を選びました。

会運営に必要な固定費約 80 万円には新入会員からの入会金をあて会報発行および名簿修正等の費用相当分を年会費として受益者負担にする方針で試算し，入会金 3,000 円，年会費 1,000 円を割り出しました。

従って既納の終身会費 5,000 円は入会金 3,000 円＋２年分の年会費として処理します。以後会費未納の会員に対しては，名簿修正は行いますが，会報（無償），名簿（有償）の配布等のサービスは会費納付まで停止することによって不平等を是正して行きたいと考えます。

＊豊橋技術科学大学同窓会会則改正案＊

改正前

＊印：改　正

第３章　会　員
第５条　本会は，次の会員をもって組織する。
＊(1)　正 会 員　豊橋技術科学大学大学院修了生及び同大学学部卒業生
(2)　準 会 員　豊橋技術科学大学大学院及び同大学学部在学生
(3)　特別会員　豊橋技術科学大学の現職又は退職教官で，役員会において推薦された者
(4)　賛助会員　本会の目的を賛助する者で，役員会において推薦された者

第４章　役　員
第６条　本会に次の役員を置く。
(1)　名誉会長　　（豊橋技術科学大学長）
(2)　会　　長　　１名
(3)　副 会 長　　２名
(4)　理　　事　　若干名
(5)　監　　事　　２名
＊(6)　顧　　問　　若干名

第７条　役員の選出は，次の各号に定めることろにより行う。
(1)　会長は，正会員のうちから役員会により選出する。
(2)　副会長及び監事は，正会員のうちから会長が推薦する。
＊(3)　理事は，正会員のうちから互選する。
＊(4)　顧問は，役員経験者で，役員会の議を経て会長が委嘱する。

第９条　会長は，本会を代表し，会務を総括する。
２　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。
３　理事は，庶務，会計及び会報等の編集事務を処理する。
４　監事は，本会の財産及び会計を監査する。
＊５　名誉会長及び顧問は，本会の運営について助言を与え，会長の要請に応じて総会及び役員会に出席し，意見を述べることができる。

第５章　総　会
第10条　総会は，定期総会及び臨時総会とし，会長が招集する。
＊２　定期総会は，毎年１回開催することを原則とする。
３　臨時総会は，次の場合に開催する。
(1)　会長が必要と認めたとき
(2)　役員会が必要と認めたとき
＊(3)　正会員の３分の１以上が会議の目的事項を示して，その開催を請求したとき

第７章　会　計
＊第18条　正会員は，終身会費として5,000円を納入する。

＊第19条　既納の会費は返納しない。

改正案

第３章　会　員
第５条　本会は，次の会員をもって組織する。
第５条　(1)　正 会 員　豊橋技術科学大学学部卒業生で同大学大学院修士課程に在籍していない者，及び同大学大学院修士課程修了生。
(2)　準 会 員　豊橋技術科学大学大学院 修士課程及び同大学学部在学生
(3)　特別会員　豊橋技術科学大学の現職又は退職教官で，役員会において推薦された者
(4)　賛助会員　本会の目的を賛助する者で，役員会において推薦された者

第４章　役　員
第６条　本会に次の役員を置く。
(1)　名誉会長　　（豊橋技術科学大学長）
(2)　会　　長　　１名
(3)　副 会 長　　２名
(4)　理　　事　　若干名
(5)　監　　事　　２名
(6)　評 議 員　　各系各期１名
(7)　顧　　問　　若干名

第７条　役員の選出は，次の各号に定めることろにより行う。
(1)　会長は，正会員のうちから役員会により選出する。
(2)　副会長及び監事は，正会員のうちから会長が推薦する。
(3)　理事は，正会員の内から評議会が推薦した者及び会長の委嘱による者若干名とする。
(4)　評議員は正会員各系各期より１名推薦された者に会長が委嘱する。但し，各系各期は原則として学部卒業の時点でグループ分けするものとする。
(5)　顧問は，役員経験者もしくは特別会員で役員会において推薦された者とする。
２　会長は，総会の承認を得るものとする。
第９条　会長は，本会を代表し，会務を総括する。
２　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。
３　理事は，庶務，会計及び会報等の編集事務を処理する。
４　監事は，本会の財産及び会計を監査する。
５　評議員は，重要なる会務に参与する。
６　（改正前の５）

第５章　総　会
第10条　総会は，定期総会及び臨時総会とし，会長が招集する。
２　定期総会は，３年に１回10月に開催することを原則とする。
３　臨時総会は，次の場合に開催する。
(1)　会長が必要と認めたとき
(2)　役員会が必要と認めたとき
(3)　正会員の100名以上が，会議の目的事項を示してその開催を請求したとき。
＊４　会長は，総会を招集するとき，事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第７章　会　計
第18条　本会の会費は次のとおりとする。
(1)　入会金　　3,000円
(2)　会　費　　1,000円
２　会費の納入は正会員のみとする。
３　正会員もしくは準会員として初めて本会に入会するときには，入会金及び初期２年分の会費を納入する。
第19条　既納の会費は原則として返納しない。但し，準会員が卒業もしくは修了以前に学籍を離れた場合に限り，半年以内に請求があれば返納する。

＊付　則　正会員は，３年目から年会費を納付しなければならない。
本会則は，昭和61年10月12日から施行する。

＊第３回同窓会総会報告＊

日時　昭和61年10月12日(日)　13：00～14：00
場所　豊橋技科大講義棟Ａ205室
議題と結果
１）同窓会会則改正…役員会より別紙のとうり新会則が提案され，全会一致で可決。
２）会　長　承　認…全会一致で承認。
３）決　算　報　告…役員会より，昭和58，59，60年度の決算報告があり，全会一致で承認。
４）予算案および中期事業計画案…原案通り承認。

同窓会決算

昭和58年度（昭和58年４月～昭和59年３月）

収　入	57年度よりの繰越金		2,254,827円
	会費　261名		1,305,000
	利息		110,648
	計		3,670,475
支　出	会報編集印刷発送		321,090
	入会案内手続諸掛		2,820
	通信費		11,335
	役員会経費		23,850
	その他		21,380
	計		380,475
差引残高			3,290,000

昭和59年度（昭和59年４月～昭和60年３月）

収　入	58年度よりの繰越金		3,290,000円
	会費　239名		1,195,000
	利息		80,396
	計		4,565,396
支　出	通信費		17,280
	事務用品		2,920
	技科大祭寄付		20,000
	封筒印刷費		15,000
	役員会経費		12,000
	その他		5,000
	計		72,200
差引残高			4,493,196

昭和60年度（昭和60年４月～昭和61年３月）

収　入	59年度よりの繰越金		4,493,196円
	会費　230名		1,150,000
	利息		152,709
	計		5,795,905
支　出	会報編集印刷発送		680,330
	通信費		2,700
	事務用品		420
	アルバイト代		35,500
	役員会経費		22,900
	その他		1,440
	計		743,290
差引残高			5,052,615

同窓会活動実積

会員一人当りの受益金　（円）

	支　出（万円）	会員数（人）	一人当り（円）	１期	２期	３期	４期	５期
S.57	45.6	545	837	837				
S.58	32.1	806	398	1235	398			
S.59	0	1045	0	1235	398	0		
S.60	71.6	1275	562	1797	960	562	562	
S.61	(140.0)	(1505)	(930)	(2727)	(1890)	(1492)	(1492)	(930)
				会報1号				
				会報2号	２号			
				会報3号	３号	３号	３号	
				会報（４号）	（４号）	（４号）	（４号）	（４号）
				名簿（有償）	（有償）	（有償）	（有償）	（有償）

全支出の内，会議費，設備費等の固定費を除く。
S61年に関しては，名簿訂正のための調査，人件費，大学への礼金等約25万円を含む。

昭和62年度以降の支出算出基準

固　定　費　S62年度82万円とし　年率３％増
会報印刷代　S62年度50万円とし　〃
発　送　代　切手　封筒，人件費
（170円＋100円）×会員数×1.3＝（351円×会員数）
固定費内訳
1.会議費（出席者交通費昼食代等）　25.8万円
役員会　年３回　18人×0.7×2500円＝　9.5万円
分科会　３×年３回　６人×0.9×1500円＝7.3
評議会　年１回　36人×2500円＝　9.0
注）2500円
（通信費400円＋昼食代600円＋交通費1500円）
2.行事費（技科大祭寄付，卒業記念パーティ）10万円
3.役員間通信費，事務費　8万円
4.人件費（アルバイト）　月60時間×10ヶ月×500円
会報発送以外の事務作業　30万円
5.設備費（名簿管理のコンピュータ化）　8万円

長期収支計画案

（改　正　前モデルＡ）　（改　正　前モデルＢ）　（改　正　後）　（万円）

年度	会員数	支出 固定費および会報印刷	支出 発送料	支出 計	残金	支出 固定費および会報印刷	支出 発送料	支出 計	残金	収入＊	支出 発送料	支出 計	残金
S61	1500				355				355	115.0			355
S62	1730	132.0	60.7	192.7	277.3	60.0	60.7	120.7	349.3	161.5	60.7	192.7	323.8
S63	1960	136.0	68.8	204.8	187.5	61.8	68.8	130.6	333.7	184.5	51.8	187.8	320.5
S64	2190	140.0	76.9	216.9	85.6	63.7	76.9	140.6	308.1	184.2	45.2	185.2	319.5
S65	2420	144.2	84.9	229.1	−28.5	65.6	84.9	150.5	272.6	193.4	48.5	192.7	320.2
S66	2650	148.6	93.0	241.6	−155.1	67.5	93.0	160.5	227.1	202.6	51.7	200.3	322.5
S67	2880	153.0	101.1	254.1	−294.2	69.6	101.1	170.7	171.4	211.8	55.0	208.0	326.3
S68	3110	157.6	109.2	266.8	−446.0	71.6	109.2	180.8	105.6	221.0	58.2	215.8	331.5
S69	3340	162.3	117.2	279.3	−610.3	73.8	117.2	191.0	29.6	230.2	61.4	223.7	338.0
S70	3570	167.2	125.3	292.5	−787.8	76.0	125.3	201.3	−56.7	239.4	64.7	231.9	345.5
S71	3880	172.2	133.4	305.6	−978.4	78.3	133.4	211.7	−153.4	248.6	67.9	240.1	354.0

モデルＡは，前述の支出算出基準（現行役員会の基本方針）に従った。
モデルＢは，役員への補償金および入件費をゼロとし，固定費を10万円／年（62年度）まで圧縮した場合。
（但し会長以下役員の総入れ替えが不可欠）
※会費納入率は0.4と仮定した。

昭和61年度修正予算案

収　入	前年より	5,052,615
	入会金＋会費 230名	1,150,000
	会員名簿	1,000,000
	（２千円×500部）	
	十年史	900,000
	（３千円×300部）	
	計	8,102,615
支　出	会報印刷発送	1,030,000
	名簿登録印刷	1,150,000
	十年史印刷	500,000
	名簿十年史案内及び発送	550,000
	設備（PC9801）及びソフト	700,000
	会議費	160,000
	通信事務費	80,000
	技大祭寄付金	20,000
	人件費	250,000
	事業費(卒業記念パーティ)	100,000
	計	4,540,000
残高		3,562,615

中期事業計画案

1　会員名簿２号は，１～７期（Ｓ63年３月卒業修了まで）を範囲としＳ64年８月に有償（２～2.5千円）で発行する。
2　会報を毎年発行する。
　４号　Ｓ62年１月（４期名簿含む）
　５号　63　（５期　〃　）
　６号　64　（６期　〃　）
　７号　65　（７期　〃　）
3　評議委員会をＳ62年以降毎年６月に開催し，前年度決算及び当年度予算を審議，新役員を選出する。
4　Ｓ64年10月に第４回総会を開催し，総会後懇親会を行う。
5　事務合理化のため名簿管理のコンピュータ化を行う。
　Ｓ61年にPCを購入し検討開始する。
6　大学内に本部を置いて，会員からの問い合わせに対応できるよう大学側と交渉を始める。
7　卒業式後の卒業記念パーティを主催し，新正会員の同窓会への理解を深める。

＊評議員募集のお知らせ

会則改正に従い，下記要項にて評議員への立候補を募ります。積極的に応募下さいますようお願いいたします。

募　集　要　項

1）募集人数　各クラス１名（学部卒業時のクラスを基本とする。）
2）業務内容　◦年１回６月の評議会に出席する。
　（前年度決算および当年度予算案の決議　理事の推薦）
3）任　　期　原則として２年（理事に準ずる）
4）補　　償　評議会出席のための交通費および会員もしくは役員との連絡費は原則として全額支給する。（但し，交通費の上下限等の詳細は理事に準じて別に定める）
5）募集期間　昭和62年１月５日～３月16日当日（消印有効）
6）応募先および問合せ先　〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1—1 豊橋技術科学大学内　豊橋技術科学大学同窓会　評議員係
　（電話による問い合せは御遠慮下さい。）

＊年会費納付のお知らせ＊

会則改正に従い，下記のように年会費の納付を開始しますので，御協力下さいますようよろしく申し上げます。尚，当年度内に会費納入無き場合は未納会員として登録され，以後会報，名簿等の発送は会費納入まで停止いたします。

期	1	2	3	4	5
会費納付開始年度	昭和62年度	昭和62年度	昭和63年度	昭和63年度	昭和63年度
初年度会費	1700円	900円	1500円	1500円	900円
２年目以降	1000円	1000円	1000円	1000円	1000円
対象会員	57年修了 55年卒業 56　〃 57　〃	58年修了 〃　卒業	59年修了 〃　卒業	60年修了 〃　卒学	61年修了 〃　卒業

初年度会費は，同窓会活動実績より算出した。
例）：１期　61年度までの受益金2700円（100円未満四捨五入）－既納会費（２年分）2000円
　＋昭和62年度会費1000円＝1700円
また，６期以降は原則として初年度会費の調整を行わない。

＊十年史・同窓会名簿追加注文の御案内＊

開学10周年を記念して，昨年発行致しました，十年史・同窓会名簿についてそれぞれ約150冊，500冊が残っております。

開学以外の歴史を綴った十年史は予想を上まわる反響を呼び，300冊完売，その後も注文が増え続け増刷した後の残部数です。

同窓会では独立採算制をとっており，残部数はそのまま赤字として計上されてしまいます。

昨年，注文の機会を逸した方も含め，購入を希望される方がございましたら，下記まで葉書にて御注文下さいますようお願い申し上げます。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘１—１
豊橋技術科学大学内
豊橋技術科学大学　同窓会事務局
十会史・同窓会名簿 係

価格　十　年　史＝　３，０００　円
　　同総会名簿＝　２，０００　円

編集後記

同窓会会報第４号をお届けします。前号の反省も含め，今回は，役員一同，意欲的な取組みをみせ，寄稿文，原稿の依頼等，比較的スムーズに進み，ほぼ，スケジュール通り発行にこぎつけることができました。

これも，学内関係者をはじめ，会員諸氏の協力のおかげと，紙面を借りて御礼申し上げます。

今回は，特に会員の皆様からの寄稿文に多くの紙面をさきましたが，いかがでしたでしょうか？

会報というと肩苦しい内容が多く，目を通す所も少ないかと思いますが，より楽しく，充実した紙面作りを目指してなお一層努力していく所存であります。

つきましては，会報について御意見・御要望等ございましたら，編集係まで連絡下さいますようお願い申し上げます。掲載原稿につきましても，いつでもお受け致しますので，お気軽に御送り下さい。

また，同窓会編集係では，経費節減の一助として広告掲載企業を広く募集しております。価格，スペース等詳細は未定ですが，皆様のお勤め先の宣伝担当部門へ紹介していただければ幸いに存じます。